

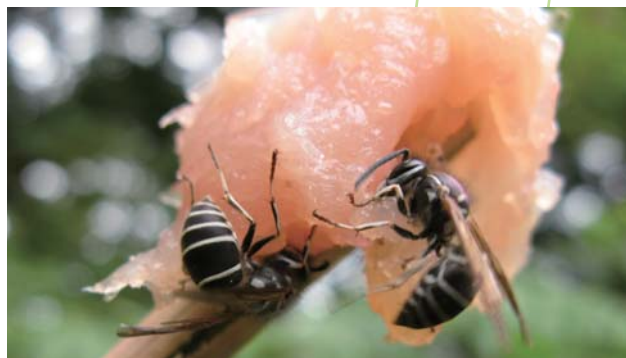
刺されても好きな人

～引いて惹かれて昆虫食～

三宅尚巳・野中健一

2008年 5月15日 (木) 19:00～

会場 … 4階喫茶にて
入場料 … 1,000円 (ドリンク付き)
定員 … 40名
受付 … 1階 案内カウンターにて



●電話予約承ります●

ジュンク堂書店 池袋本店

TEL:5956-6111 FAX:5956-6100



スズメバチって怖い?それとも美味しい?餌でおびき寄せ目印を付けた肉を運ぶハチを追いかけ巣にたどり着き、掘り出すわくわく感。小さな巣を箱に入れて、餌を与え外敵から守り大きく育てる愛おしさ。そして山盛りのハチの子を皆で味わう嬉しさ・・・昆虫食を通じて自然と関わり合う魅力、知識

と技のすばらしさを、クロスズメバチ捕り70年の名人が語ります。小さな昆虫に、こんなの食べられるの?こんなものが食べられるんだ!こんな捕り方をするんだ!・・・身近な自然から世界が大きく広がりますように。



講師紹介

【三宅尚巳 (みやけ・なおみ)】

1926年岐阜県生まれ。農林業。くしはらへボ愛好会会長。全国地蜂連合会初代会長。小学校時代にへボ(クロスズメバチ)捕りを始めて以来その魅力にとりつかれ、名人と呼ばれるようになる。1999年に全国地蜂連合会を設立し、会長に就任。全国的にへボの保護・増殖活動を行うとともに、「全国へボの巣コンテスト」を開催するなど地域活性化に努めている。2006年に「森の名手・名人100人」に選ばれた自然に生きる、自然を活かす達人。

【野中健一 (のなか・けんいち)】

立教大学文学部教授。1964年愛知県生まれ。名古屋大学大学院文学研究科中退。日本、東南アジア、南部アフリカを中心に身近な生物の利用を通じた人と自然との関わり合いを地理学、生態人類学、民族生物学の視点から研究。主な著作に『虫食む人々の暮らし』(NHKブックス 2007年)、『民族昆虫学—昆虫食の自然誌』(東京大学出版会 2005年)、『野生のナビゲーション—民族誌から空間認知の科学へ』(古今書院 2004年)『環境地理学の視座—人間と自然—関係学をめざして』(昭和堂 2003年)、最新刊『ヴィエンチャン平野の暮らし—天水田村の多様な環境利用』(めこん 2008年)など。